

令和6年度 大社高等学校 学校評価

※生徒・保護者・教職員評価の「評価」欄の基準は肯定的評価の％:A:80%以上 B:65～79% C:50～64% D:50%未満、 全体の「総合評価」欄は学校関係者評価委員会の意見等を考慮した総合評価

教育目標	カリキュラム ポリシー	担当	生徒・保護者 教職員評価	評価項目	生徒評価			保護者評価			教職員評価			評価	自己評価	改善策	学校関係者評価委員会での意見等	総合 評価							
					評価	率 %	評価	評価	率 %	評価	評価	率 %	評価						率 %	評価					
					評価	率 %	評価	評価	率 %	評価	率 %	評価	率 %						評価						
生徒の当事者意識と他者と協働する力を育む活動の推進	(1)開かれた学校づくり	総務	1	13	積極的な情報発信による、開かれた学校づくりの推進			3.4	94	A	3.2	91	A	3.2	94	A	HPについては、少しずつではあるが要望に応えつつ改善できた。「社高の風」をはじめとする紙ベースの刊行物について、質の向上をはかる必要がある。	紙ベースの刊行物については、担当の複数配置と分室内でのチェック機能を強化し質の向上をはかる。	・体育科を持つ大社高校の寮は、島根県の競技力向上のために非常に重要である。国民スポーツ大会に向けて、寮の改修等が必要である。	A					
			3	14	ICTスタッフとの連携			3.4	94	A	3.4	95	A	3.3	100	A	HPの改善、朝礼伝達、新入生オリエンテーションに関するWeb入力などで効率向上を図ることができた。	今後もICTに関わる様々な要望が出てくると考えられるため、緊密な連携を継続する。							
		生徒指導	9		ボランティア活動の推進								3.3	94	A	A	参加者が昨年の1.5倍に増加した。ボランティア活動の推進を通して地域への貢献度は高まったと考えられる。	今後も、情報発信に努め、参加を呼び掛けしていく。							
			20		指導力								3.1	96	A	A	・多くの情報発信機会を設定できた。特に「遊ぼう！キッズフェスタ」や「課題研究発表」などの独自事業は生徒にとってよい経験となった。 ・班での探究活動や「遊ぼう！キッズフェスタ」の中で自身の役割や特徴を見つけ、進路を考えていく上でのきっかけとなった。	・情報発信の振り返りを充実し、より効果的な発信ができるようにしたい。今後も積極的なかわりができる機会を提供していく。 ・各施策の中で自身の役割や特徴を見つけられる生徒の割合が一層高まるように、各施策の内容を振り返り改善していく。							
			寮務	10		寮生のライフスキルの向上								2.9	78	B	B	寮内の規則があいまいな点があり、指導しにくい場面があった。寮生の様子を、外部舎監を含めて情報共有をうまく図ることができず、対応が遅れることがあった。			寮生活の規則を明確にしたうえで、舎監が同じ基準で指導が行える体制を構築する。必要に応じて寮生集会等を開催し、寮生全体で規則を守る意識を高める。				
	(3)総合的な探究の時間の充実	教育研究1年	16	7	「総合的な探究の時間」「スポーツ総合演習」の効果的な実施			3.3	91	A	2.9	79	B	3.2	91	A	A	探究活動を実施する上で必要なスキルを身につける活動や実際に身近なことを探究する経験を積むことができた。	理数探究基礎の実施に伴い、探究活動を深めるため文献等を活用し、情報を整理する活動やデータを根拠として扱えるような活動を取り入れていく。	・寮生の自治を働かせた方が良い。 ・探究活動は大変良い取り組みであるが、教員の負担も大きいと思う。コンソーシアムを通じて地域人材を活用してほしい。	A				
		教育研究2年	16	7	「北九州研修旅行」の効果的な実施			3.3	88	A	3.1	84	A				A	研修先までの長い移動時間で活動に制約があり、研修時間が少なかった。班別フィールドワーク等、新しい研修を取り入れることができた。	総合的な探究の時間での探究活動を充実させていくとともに、岡山県内の研修に変更し、研修の時間と内容を充実したものにブラッシュアップしていく。						
		教育研究3年	16	7	「総合的な探究の時間」の効果的な実施			3.1	81	A	3.0	86	A				A	志望理由書講座、小論文講座および模試の実施をするなど各自の進路に向けて、表現力を育成する場を設定することができた。	表現力を育成するのに文章を書くだけでなく、プレゼンテーション等で自分の意見を表現する力も育成する場を設定していく。						
		教育研究	17		教員研修の充実								3.1				88	A	A			必修的研修、能力開発研修の案内を適宜行うことができた。「探究活動」を充実させるための講演に岡本尚也講師を招聘し実施できた。	免許更新制度の変更により教員が主体的に参加できるので、研修の周知に努める。総合的な探究に関わる講演会が同じ週に連続しないように講師との連携を図る。		
		目標達成に向けて計画的に粘り強く取り組む活動の推進	(1)主体的な学習態度の育成	教務1年	23	3	主体的に学ぶ態度の育成			3.4	94	A	3.0				85	A	2.9			81	A	A	生徒が前向きに学習に取り組む様子はうかがえた。計画的な学習および家庭学習の習慣化という点では、もう少し教員の仕掛けが必要となる。
教務2年	25			3	主体的に学ぶ態度の育成			3.2	88	A	3.1	88	A	2.9	83	A	A	学習に関する情報提供や提出課題など、生徒が計画的に学習に取り組めるような支援をしてきた。学習に対する意識が高まった生徒は多いが、家庭学習時間の増加には結び付いていない。	部活動の大会やテスト(単元テスト)の情報を教員間で共有し、生徒が今すべきことは何かを明確にして、学習に取り組みやすい環境を作る。						
進路指導1年	11			5	進路意識の高揚			3.4	94	A	3.0	84	A	3.3	91	A	A	概ね高評価であった。文理選択に併せた行事の配置や学年部の指導がよかったと考えている。模試、補習も機能したように思う。	今年度同様に、文理選択等に併せた指導を継続したい。また、補習、模試を活用した学習を勧めたい。						
進路指導2年	11			5	進路意識の高揚			3.3	93	A	3.1	85	A				A	概ね高評価であった。コース選択に向けた行事や学年部の指導がよかったと考えている。一方で、模試、補習等へのモチベーションに差が出てきている感はある。	2年次後半に、次年度につながるような学習や活動を取り入れさせたい。過去年度の入試情報を伝えたい。						
進路指導3年	12			27	5	進路志望実現への支援			3.1	81	A	3.0	82	A	3.2	93	A	A	個人指導を中心に支援できたと思うが、増え続ける年内入試への対応を再考する時期であると考えている。	年内入試の学校間の難易差が大きくなっている。本年の情報を伝ええるとともに、安易な進路選択とならないように指導したい。					
体育	19				競技力									3.2	100	A	A	・スポーツ概論や専攻実践等で学んだことが専門科目と各専攻科目にどうつながるのか、積極的に示すことができた。まだつながりを感ぜられない生徒もいるので、さらなる充実を図りたい。 ・スポーツ総合演習で学んだことを専攻科目に生かそうとする生徒が増えた。2030国スポへ向けた取り組みと連動しながら、競技力向上に向けて努力した。	・スポーツ総合演習や総合的な探究の時間との関連を図りながら、充実させたい。また、専門科目スポーツⅠ～Ⅵの機会をとらえながら、効果を高めていきたい。 ・専門科目で得た知識はもちろん、スポーツ総合演習などを通して得た探究の力を競技力向上へつなげたい。						
(2)部活動の推進	教務		5	1	授業改善、適正な評価			3.3	92	A	3.1	92	A	2.8	72	B	A	各教科で工夫をしながら授業改善や学習評価を行っているが、生徒にとってややわかりにくいものであるかもしれない。評価基準に関して教員間でも様々な意見があり、検討すべき時期でもある。	評価基準を生徒、保護者に明確に伝え、学習への取り組み方を調整・修正できるようにする。評価基準が適性であるかを検討する。	・単元テストを行う意味を共通理解する必要がある。 ・ICTを活用した授業改善についての評価項目を設ける。	A				
			4		単元テストの実施									2.6	55	C	C	単元テストが集中する時期があり、それが生徒の学習バランスを崩したり、部活動との両立を難しくさせることになっている。	単元テストの意義を生徒や保護者に伝え、日々の学習への意識を高める。実施方法や実施時期を検討する。						
	(3)安心・安全な学校づくり		進路指導	13	2	4	3年間を見通したキャリア教育・進路指導			3.4	92	A	3.1	90	A	3.0	84	A	A			1.2年次の行事の配置やHR計画は良いと思う。志望系統に偏りがあるのは本年も同じであった。	現在行っている社会人講話など外部人材の活用をを継続して行う。	・甲子園での応援で大社高校の団結力を見ることができた。また、在校生、卒業生、地元住民に誇りを与えてくれた。 ・甲子園、インターハイ等全国での活躍で、大社のみならず、出雲の全国での認知度を上げてくれたことに感謝している。 ・異動があっても、部活動指導が継続的にできるようにしてほしい。 ・競技者としてだけでなく、指導者などスポーツを支える人材が育ってほしい。	A
			教育研究	18	6	読書・図書館活動の充実			3.1	80	A	2.9	76	B	3.3	100	A	A	図書館だよりの発行やHPの利用により、図書館の情報を発信できた。教科利用も増加。朝読書など、生徒が本に触れる機会を増やすことができた。			クロームブックを活用し、グーグルクラスルームやHPに情報発信をできるので、生徒がその内容を確認するような仕組みを検討していきたい。			
生徒指導		6	8	部活動の推進			3.4	92	A	3.2	85	A	3.0	91	A	A	県総体男女総合優勝、全国大会入賞、夏の甲子園ベスト8等、大きな成果を上げることができた。	部活動が生徒一人一人の自己実現の場となるよう、教員による支援体制を整える。							
生徒指導		7	11	いじめをしない、させない体制づくり			3.2	84	A	3.0	84	A	2.9	81	A	A	多くの生徒が落ち着いた学校生活を送ることができた。いじめアンケートの実施時期に課題が残った。	いじめアンケートの実施時期を早めて、実施目的・方法を周知し、100%の回答を実現する。							
生徒指導		8	10	交通マナーの向上			3.3	91	A	2.9	80	A	3.2	94	A	A	朝の交通指導を4回行い交通安全を呼び掛けたが、登下校における自転車通学マナーの向上には十分繋がらなかった。	定期的な交通安全指導を引き続き行い、通学マナー向上と事故防止に努める。							
生徒指導1年		22	9	人権教育の推進			3.2	88	A	3.0	85	A	3.0	90	A	A	細やかに面談を行いながら、生徒の悩みや訴えに対応できた。ペア学習やグループ学習には意欲的に取り組むことができた。	周囲に配慮できる生徒を育てるべく、折に触れて話をしながら、引き続き指導を続ける。							
生徒指導2年		24	9	人権教育の推進			3.2	87	A	3.0	88	A	3.0	90	A	A	研修旅行では、班で協力しながら計画的な自主研修ができた。また、集合時間などのルールを全員が意識して行動するなど、協調性が見られた。	担任、教科担任、部活動顧問等多くの教員で連絡を密に取り、気になる生徒や雰囲気があれば、迅速な対応をする。							
生徒指導3年		26	9	人権教育の推進			3.2	88	A	2.9	82	A	3.0	93	A	A	多くの生徒は穏やかに3年間を過ごすことができたが、生徒間のトラブルの多くはSNSが発端となっており、教員からは見えないことが多く、初期での対応が難しい部分があった。	グループワークや集団活動の機会を増やし、SNSに頼らない他者とのつながりを持たせる。							
体育		21		組織力									3.2	97	A	A	・スポーツ総合演習の中で積極的にICTを活用したことで、仲間同士の意見共有や外部からの情報収集を効果的に行うことができた。 ・各専攻種目の活動やスポーツ総合演習の中で外部の方とかわりが増やすことができた。外部の方や地域の方とかわりながら、他者や地域社会を意識する生徒が増えた。	・引き続きさまざまな活用方法を学び、効果的な活用に努めたい。 ・自他を大切にする態度や地域社会に貢献する態度が見える生徒の割合を増やすために、より主体的な活動を目指したい。							
保健		14	12	相談・対応できる体制の整備			3.3	91	A	3.0	89	A	3.4	100	A	A	「保健だより」「SC(スクールカウンセラー)だより」の発行やSCによる講演会等、保健室を身近に感じてもらうよう努めた。生徒の様子について担任との情報交換に務めた。	SCの活用については、せっかくの事業なので生徒保護者により還元できるようにしたい。そのためには、SCの来校情報を年度初めの掲示物に頼るのではなく、定期的な案内掲示やHP掲載など工夫したい。							
総務	2		危機管理									3.1	89	A	A	年度当初に計画した防災避難訓練を実施できた。	防災意識の必要性の高まりに応え、最新の防災知識を伝え実践する場を設けていく必要がある。								
保健	15		清掃活動や安全点検への取り組み									3.5	100	A	A	生徒・監督の先生方には丁寧に掃除をしていただいた。また、定期的に行っている安全点検についても、掃除監督に確認してもらった。校舎も古く、急には改善されない部分もあるが、事務部と相談しながら改善に努めた。	トイレやゴミ箱の利用について生徒への指導が必要。担任や掃除監督から指導に加えて、保健だよりやポスター、また学年集会等での呼びかけを繰り返し行っていきたい。								
	学校満足度の向上		15	学校への満足度	3.4	93	A	3.5	95	A				A	多くの生徒が充実した学校生活ができていると思われる。	さまざまなチャレンジのできる機会の提供に努める。	・この項目の評価が高いことは、非常に大きな意味がある。引き続き取組を進めてほしい。	A							